

平成20年度 バランスシートと行政コスト で見る町の財政状況

表1 普通会計バランスシート

(平成21年3月31日現在)
(単位：千円)

借 方 金 額			貸 方 金 額		
項 目	金 額	対前年度増減	項 目	金 額	対前年度増減
【資産の部】 (町が保有している資産)	24,829,380	△719,112	【負債の部】 (町が負っている債務)	8,535,670	△162,927
1. 有形固定資産 (庁舎・学校・道路等)	22,510,987	△311,333	1. 固定負債 (1年を超えて返済する債務)	8,058,541	△163,525
(1) 建物等	15,264,254	△374,691	(1) 地方債	5,222,336	△116,551
(2) 土地	7,246,733	63,358	(2) 退職給与引当金	2,836,205	△46,974
2. 投資等 (投資その他の資産等)	910,299	△346,509	2. 流動負債 (1年以内に返済する債務)	477,129	598
(1) 投資及び出資金	68,880	1,300	(1) 地方債翌年度償還予定額	477,129	598
(2) 貸付金	3,000	0	【正味資産の部】 (企業の資本金にあたるもの) (国・県からの補助金、一般財源等)	16,293,710	△556,185
(3) 基金	738,904	△278,834	負債・正味資産合計	24,829,380	△719,112
(4) 退職手当組合積立金	99,515	△68,975			
3. 流動資産 (現金・預金・債権)	1,408,094	△61,270			
(1) 現金・預金	969,961	△60,707			
(2) 未収金	438,133	△563			
資 産 合 計	24,829,380	△719,112			

バランスシート(表1)
(普通会計)

バランスシートにより、町がこれまで整備した学校・道路等の保有状況やこれらを整備するために借り入れた負債の状況などが把握できます。借方には町が保有している「資産」、貸方にはその資産を形成するために要した「負債」や「正味資産」(民間企業の資本にあたるもの)が表示されています。

平成20年度末現在の資産は、248億2,938万円。このうち、庁舎・学校・道路等の有形固定資産は、225億1,098万円で、90.7%を占めています。これらの資産を形成するために要した地方債は56億9,946万5千円(固定負債における地方債52億2,233万6千円と流動負債における翌年度償還予定額4億7,712万9千円の合計)、正味資産が162億9,371万円となっています。

資産は、昨年度より7億1,911万2千円減少、負債は1億6,292万7千円減少、正味資産は5億5,618万5千円減少しています。

資産のうち、有形固定資産は、子育て支援センターの整備工事等による増加分から減価償却した分を差し引いた結果、昨年度より3億1,133万3千円減少しています。一方、投資等における基金(公共公益施設整備基金や下水道整備事業のための都市計画事業整備基金等)が該当。財政調整基金は流動資産の現金・預金に

表2 行政コスト計算書 (自平成20年4月1日～至平成21年3月31日)

(単位：千円)

項 目	金 額	対前年度増減
【人にかかるコスト】(行政サービスの担い手である職員等に要するもの)	2,803,416	△1,334,818
(1) 人件費	2,647,190	△8,195
(2) 退職給与引当金繰入等	156,226	△1,326,623
【物にかかるコスト】(地方公共団体が最終消費者となっているもの)	2,767,013	△45,747
(1) 物件費	1,820,259	△51,965
(2) 維持補修費	54,457	12,084
(3) 減価償却費	892,297	△5,866
【移転支的コスト】(他の団体に移転して効果がでてくるようなもの)	2,744,257	54,096
(1) 扶助費	732,281	27,160
(2) 補助費等	424,426	44,695
(3) 繰出金	1,550,578	△16,330
(4) 普通建設事業費(他団体等への補助金等)	36,972	△1,429
【その他のコスト】	148,154	△18,966
災害復旧事業費	0	△4,032
公債費(利子分)	109,888	△9,109
不納欠損額	38,266	△5,825
行政コスト合計 A	8,462,840	△1,345,435
(*) 町民一人当たりの行政コスト(単位：円)	253,949	△42,472
【使用料・手数料等】	312,736	△24,186
【国庫(県)支出金】	767,357	41,014
【一般財源】	6,766,604	△13,241
収入合計 B	7,846,697	3,587
【正味資産国庫(県)支出金減価償却額】 C	123,203	△1,118
差引一般財源等増減額(B-A+C)	△492,940	1,347,904
(*) 町民一人当たりの差引一般財源等増減額(単位：円)	△14,792	40,841

(*) 平成21年3月31日末住民基本台帳人口33,325人を用いています。

計算書

町では、財政状況をより分かりやすく示すために、平成20年度の行政活動の結果について、総務省方式による企業会計手法を活用した普通会計（一般会計と特別会計の一部。以下、同様。）及び町全体のバランスシート（特別会計等を含むもの）並びに行

政コスト計算書を作成しました。

なお、バランスシート及び行政コスト計算書は、町のホームページでもご覧いただけます。(http://www.town.hayama.lg.jp/)

問合せ 財政課☎内線321、322

含まれます。)は、2億7,883万4千円減少しています。

負債では地方債（固定負債における地方債と流動負債における翌年度償還予定額の合計）が1億1,595万3千円減少しています。前述した施設建設等の費用の財源の一部として地方債を借り入れたことに加え、交付税の財源不足を補うための振替財源として臨時財政対策債を特例により発行したことによるものです。また、固定負債における退職給与引当金については、年度末に全職員が退職したと想定した場合に必要な退職金で昨年度より4,697万4千円の減となっています。

行政コスト計算書(表2)

バランスシートが、過去に取得した資産や負債等の状況を明らかにするものに対して、行政コスト計算書は、資産形成につながらない1年間の町民のみなさんに提供した行政サービス活動にどれだけコスト（費用）がかかり、それを当該年度の収入（バランスシートの資産形成に充てた分を除く）でどう賄ったのかを表したものです。

平成20年度の行政コストは84億6,284万円で、昨年度より13億4,543万5千円減少しています。また、町民一人当たりのコストは25万3,949円で昨年度より4万2,472円減少しています。全体の収支では4億9,294万円不足で、町民一人当たりでは1万4,792円の不足となっています。

町全体のバランスシート（表3、表4）

地方公共団体は、普通会計で行う事業の他に下水道事業や介護保険事業等地域住民に密着した様々な事業を行っています。しかしながら、住民からしてみれば、どの事業も同じ地方公共団体が行っている事業に変わりないことから、全ての活動についてできるだけ分かりやすく伝えていくことが重要と考え、葉山町全体のバランスシートを作成しました。

対象とする会計範囲は、普通会計、公営事業会計（国民健康保険特

別会計、後期高齢者医療特別会計、老人保健医療特別会計、介護保険特別会計、下水道事業特別会計）及び土地開発公社となっています。

町全体のバランスシートにおいては、資産総額は479億6,599万3千円、負債合計は187億9,608万5千円、正味資産合計は291億6,990万8千円となっています。

普通会計と町全体のバランスシートの比較は表4のとおりです。

表3 町全体のバランスシート

(平成21年3月31日現在) (単位：千円)

借 方			貸 方		
項 目	金 額		項 目	金 額	
		うち普通会計			うち普通会計
【資産の部】 (町が保有している資産)	47,965,993	24,829,380	【負債の部】 (町が負っている債務)	18,796,085	8,535,670
1.有形固定資産 (庁舎・学校・道路・ 下水道施設等)	44,384,353	22,510,987	1.固定負債 (1年を超えて返済 する債務)	17,872,893	8,058,541
2.投資等 (投資その他の 資産等)	1,139,937	910,299	2.流動負債 (1年以内に返済 する債務)	923,192	477,129
3.流動資産 (現金・預金・債権)	2,441,703	1,408,094	【正味資産の部】 (企業の資本金にあたるもの) (国・県からの補助金、一般 財源等)	29,169,908	16,293,710
資 産 合 計	47,965,993	24,829,380	負債・正味資産合計	47,965,993	24,829,380

表4 普通会計と町全体のバランスシートの数値比較

(単位：千円)

	町全体(A)	普通会計(B)	(A)／(B)
資産合計	47,965,993	24,829,380	1.93倍
(有形固定資産a)	44,384,353	22,510,987	1.97倍
負債合計	18,796,085	8,535,670	2.20倍
正味資産合計b	29,169,908	16,293,710	1.79倍
(これまでの世代による)負担比率(b/a)	65.7%	72.4%	—

特徴的なのは、(A)／(B)の比率が資産で1.93倍なのに比べ、負債で2.20倍と資産の増加に比べ、負債の増加率が高いことです。これは、下水道事業における地方債の発行によるものです。このことにより、普通会計のみの場合と比べ、(これまでの世代による)負担比率が大きく減少し、将来世代による負担は増えています。